

おわりに

この3年間、実践との協働による研究を通じて、今、MIMを端的に言い表す3つのことばが、頭の中に浮かんでいる。

1つは、“通常の教育一般と特別支援教育との融合”というフレーズである。これは、MIMが、教科学習的な視点を有しながら、一方で、個々の教育的ニーズを把握するアセスメントをもとに、指導教材や形態等を柔軟に対応していくといった特徴を有していることを再認識したからである。

2つめは、“教員にとって共通言語としての学力指導モデル”ということである。先生方の多くは、全体への効果的な指導をいかになし得るかに重点を置いている。と同時に、特別な配慮が必要な子どもへの支援も忘れてはいない。しかし、こうした概念はあまりにも曖昧であり、実現に向けては、教員の力量や、意識、モチベーションに委ねられてしまうことも少なくない。極論すれば、これらをめざすもめざさないも、先生次第ということになる。しかし、1stステージ、2ndステージ、3rdステージという概念の導入により、今、子どもの支援ニーズは、どの状態にあるかを的確に把握することができるようになった。また、他の教員と協議する際にも、共通言語として用いることで、必要な指導・支援を互いに協議することもできる。そして、“特別な配慮が必要な子ども”という漠とした対象が、“3rdステージ（＝最終指導段階）までに効果的な指導を届ける相手”という明確な目標を携えた対象に変わると考える。

3つめは、“通常の学級におけるパラダイムチェンジ”である。これは、上記2つの総括といってもよい。“個”に対応できることは、すなわち、それを含む“全て”への対応につながることで、MIMという学力指導モデルを共通言語として用いることにより、教員間での協議の促進や、（互いに対する）支援の拡がり期待できるのではないだろうか。

このように、MIMの開発に費やした3年間は、私にとって非常に貴重で、かつ楽しく、豊かな経験に満ち溢れていた。毎週のように協力校を訪れ、MIMに関する授業はもちろんのこと、小学校1年生や2年生の平常の生活、そして先生方の動線を肌で感じる事が叶った。そこで考えた多くのこと、感じたことは、MIMの開発という研究に留まらず、教育に関わる研究を今後も進めていく筆者にとって、掛け替えのない財産となった。

この研究では、終始一貫して、“研究と実践とがいかに手を結ぶか”という点を大切にしてきた。研究での知見を実践の場で用い、そこで得られた知見を、また研究に戻し検討する。こうして、実践においてより実施可能性の高い、有効な指導モデルを開発することがこの研究における最大の目的であった。そして、多くの素晴らしい教育実践者の、惜しみない協力により、その目的が果たせたのではないかと今は考えている。

さいごになったが、各校において、研究コーディネーターとして、研究と実践との橋渡しをして下さった先生方、その先におられる通常の学級の先生方、また効果検証のために不可欠な統制群としての参加を快諾してくださった先生方、様々なかたちで研究に力を貸して下さった方々、出会った多く子どもたち・・・こうして謝辞を述べながらも、浮かんでくる皆さんなくしては、この研究を全うできなかった。心より感謝の辞を申し上げたい。

2009年 立春
海津亜希子

本研究に関する発表論文一覧

海津亜希子（2007）通常の学級における読みにつまずきのある子どもの早期発見・早期支援の可能性—M I M-PMの開発—. 日本教育心理学会第 49 回大会論文集, 711.

海津亜希子（2008）学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（M I M）の実施可能性と効果 — M I Mを全校の取り組みに広げた学校の他学年にみる効果 —. 日本教育心理学会第 50 回大会論文集, 564.

海津亜希子・平木こゆみ・田沼実畝・玉木宗久・伊藤由美・栗原光世・鈴木慶子・Sharon Vaughn（2006）通常の学級における多層指導モデル（M I M）開発に関する研究（1）. 日本 LD 学会第 15 回大会発表論文集 ,448-449.

海津亜希子・平木こゆみ・田沼実畝・伊藤由美・Sharon Vaughn（2008）読みにつまずく危険性のある子どもに対する早期把握・早期支援の可能性—Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring の開発—. LD 研究, 17, 341-353.

海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ（2008）多層指導モデル（M I M）における2nd ステージの子どもへの支援— 通常の学級での「個別の配慮計画」をもとにした指導 —. 日本 LD 学会第 17 回大会論文集, 290-291.

海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ（印刷中）特殊音節の読みに顕著なつまずきのある 1 年生への集中的指導 — 通常の学級での多層指導モデルM I Mを通じて — . 特殊教育研究, 47（1）.

海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ・伊藤由美・栗原光世・鈴木慶子・Sharon Vaughn（2007）通常の学級における多層指導モデル（M I M）開発に関する研究（2）.日本LD学会第 16 回大会発表論文集, 334-335.

海津亜希子・田沼実畝・平木こゆみ・伊藤由美・Sharon Vaughn（2008）通常の学級における多層指導モデル（M I M）の効果—小学1年生に対する特殊音節表記の読み書きの指導を通じて—. 教育心理学研究, 56, 534-547.

執筆者一覧

海津亜希子（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所：研究代表者）

平木こゆみ（東京 YMCA）

田沼 実畝（大田区立こども発達センター）

伊藤 由美（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所）

Sharon Vaughn（University of Texas at Austin）

栗原光世（東京都西東京市立谷戸小学校）

片山真喜代（滋賀県彦根市立城南小学校）

竹崎志保（島根県安来市立社日小学校）

鈴木慶子（神奈川県横須賀市立武山小学校）

安部寛子（島根県安来市立安田小学校）

秋田治美（島根県仁多町立亀嵩小学校）

井上賞子（島根県安来市立赤江小学校）

杉本陽子（福岡県飯塚市立飯塚小学校）

注）いずれも所属は，平成 20 年度現在のものであり，研究実施時の所属とは必ずしも一致しません。

通常の学級における学習につまずきのある子どもへの 多層指導モデル（M I M）開発に関する研究

平成 18-20 年度 文部科学省科学研究費補助金（若手研究（A））研究成果報告書
「学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（M I M）開発に関する研究」

平成 21 年 3 月 発行

代表 海津亜希子

発行 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585

神奈川県横須賀市野比 5 丁目 1 番 1 号

電話 046-839-6810

FAX 046-839-6919

URL <http://www.nise.go.jp>
